

千葉市バリアフリーマスタープラン の策定に向けて

千葉市

都市局 都市部 交通政策課

<目次>

1. 千葉市の現状
2. 千葉市のバリアフリー状況
3. 千葉市バリアフリーマスタープラン
～2021年(令和3年)3月策定・公表～
4. 千葉市地区別バリアフリー基本構想(JR／京成稲毛地区)
～2022年(令和4年)3月策定・公表～

1. 千葉市の現状

1. 千葉市の現状

千葉市の概要

- ・都市としての千葉市は、1126年(大治元年)千葉常重が、この地に本拠を置いたことに始まる。
- ・東京都心まで約40km、成田国際空港まで約30kmの位置にあり、立地条件は良好
- ・立地条件の良さを活かしたまちづくりを進め、人口は年々増加。【現在 約98万人】



市制施行	1921年(大正10年)1月1日
政令指定都市移行	1992年(平成 4年)4月1日
面積	271.77km ²
位置	東京都心まで約40km 成田空港まで約30km
人口	976,489 人(2022.3.1現在)
世帯数	454,496世帯(2022.3.1現在)
年間平均気温	17.0℃(2020年)



千葉市章のデザインは、
千葉氏の月星紋に、
千葉の「千」を配したもの

1. 千葉市の現状

千葉市のライフスタイル

**都会だけじゃない、田舎だけじゃない！
多彩な魅力がすぐそこにある、ゆとりあるライフスタイル**

豊かな自然を満喫

- すぐそこに、緑の里山、アーバンビーチ
- 少し足を伸ばせば、房総の豊かな自然
- “ちば”の恵みで豊かな食生活



アーバンライフも満喫

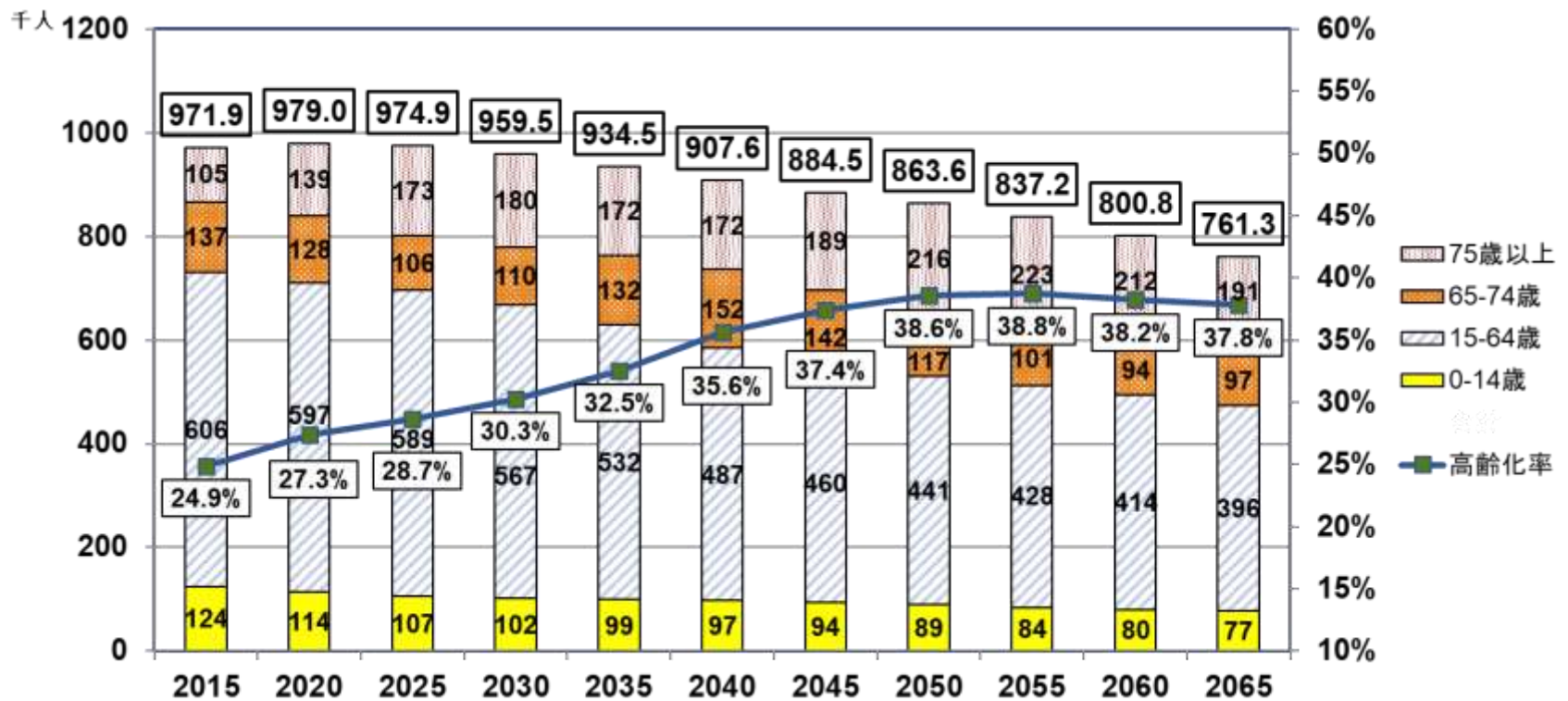
- 県内随一の拠点都市！
“ちば”に住まい、
“ちば”ではたらく
- ショッピングや
スポーツ、エンター
テインメントも充実



1. 千葉市の現状

総人口の推移

- ・ 市総人口のピークは、2020年(97万9千人)
- ・ 2065年までに、21万7千人(22.2%)も減少
- ・ 高齢化率は、2055年に38.8%まで上昇

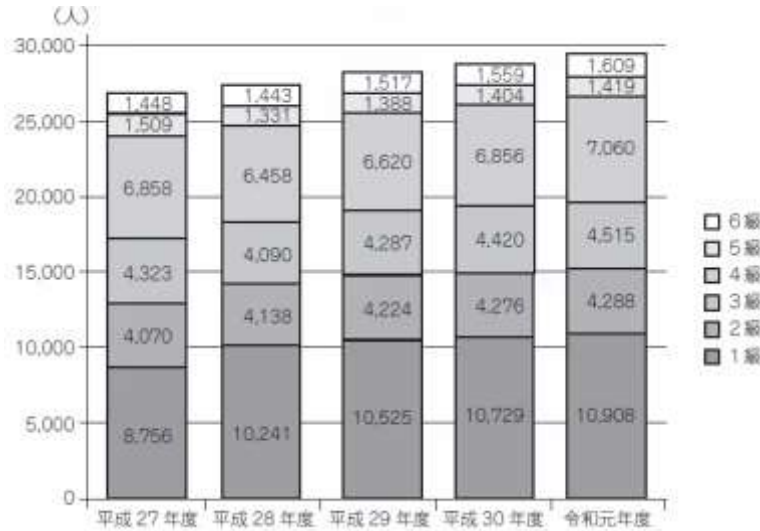


(備考) 2020年以降は千葉市推計

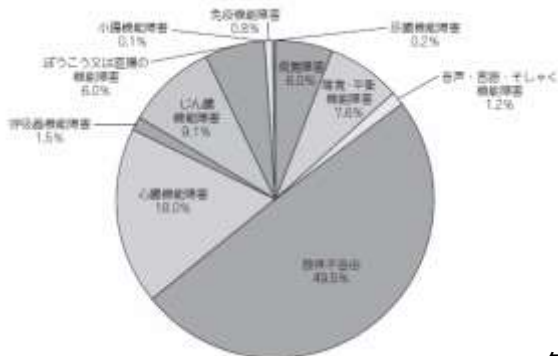
1. 千葉市の現状

障害者数の推移

◇等級別身体障害者手帳の交付状況

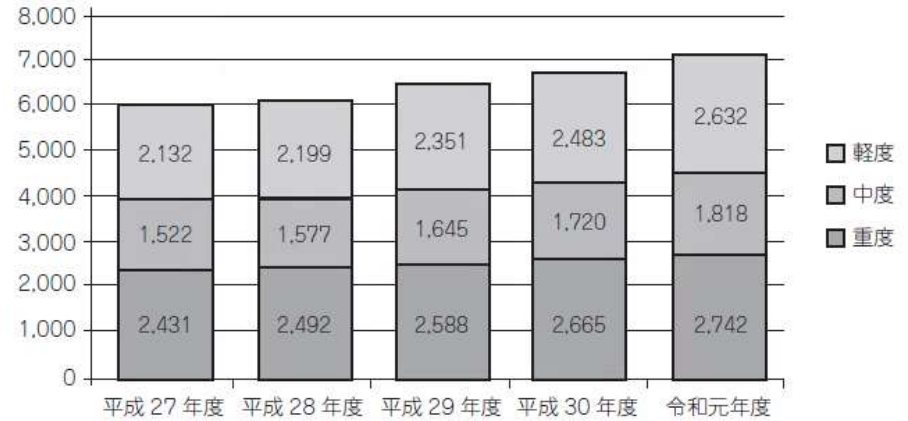


≪身体障害者手帳の交付状況(内訳)令和元年度≫



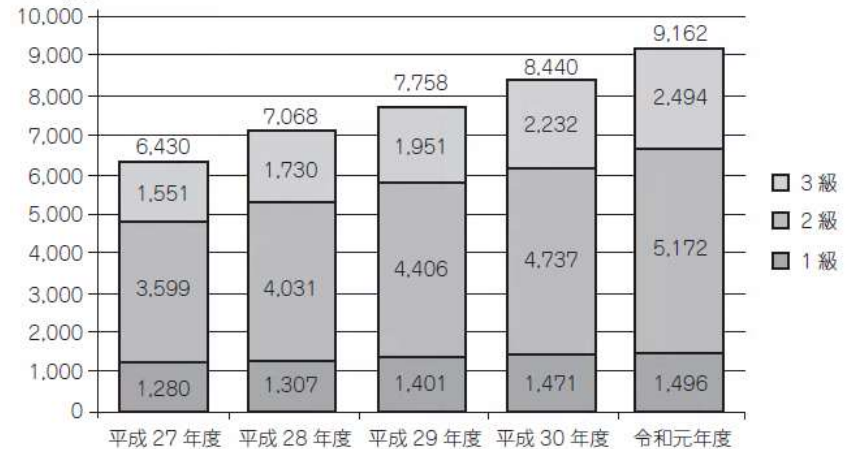
◇障害程度別療育手帳の交付状況

(人)



◇等級別精神障害者保健福祉手帳所持者数

(人)



第5次千葉市障害者計画及び第6期千葉市障害福祉計画及び第2期千葉市障害児福祉計画より

2. 千葉市のバリアフリー状況

2. 千葉市のバリアフリー状況

旅客施設のバリアフリー化



エレベーター設置
(京成おゆみ野駅)



多機能トイレ(京成検見川駅)

信号機等のバリアフリー化



音響式信号機
エスコートゾーン

車両のバリアフリー化



ノンステップバス



ユニバーサルデザインタクシー

道路のバリアフリー化



視覚障害者誘導用ブロック

2. 千葉市のバリアフリー状況

種 別		事業状況等 ※2021年度(令和2年度)末時点	
公共交通	鉄軌道	JR 【18駅】	全駅において、「段差解消」、「多機能トイレ」や「内方線付き点状ブロック」など主要なバリアフリー項目を概ね達成済み。
		京成電鉄 【13駅】	1日当たりの平均利用者 3,000 人以上(コロナ禍前)の10駅は、「段差解消」や「多機能トイレ」など主要なバリアフリー項目を概ね達成済み。
		千葉都市 モノレール 【18駅】	全駅において「段差解消」の対応済み。また、1日当たりの平均利用者 3,000 人以上(コロナ禍前)の5駅は、「多機能トイレ」を設置済み。
	バス	路線バス事業者 【10社】	ノンステップバス導入率 約73%
	タクシー		ユニバーサルデザインタクシー導入率 約10% ※千葉支部圏内(千葉市及び四街道市)

2. 千葉市のバリアフリー状況

種 別	事業状況等 ※2021年度(令和2年度)末時点			
道路	従前バリアフリー基本構想の重点整備地区(18 地区) 道路特定事業 整備率 約88%			
交通安全	従前バリアフリー基本構想の重点整備地区(18地区) <主な事業内容> 地区内の生活関連経路上の信号数 236箇所 ・バリアフリー対応信号機の設置 236箇所 ・エスコートゾーンの設置 18箇所			
都市公園	市内にある都市公園 1,142箇所(市立公園のみ)			
	施設種別	設置公園数	特定公園施設の 例外規定公園数※1	バリアフリー基準への適合状況 適合箇所 達成率
	園路及び広場	1,003	5	189 18.9%
	駐車場	23	1	17 77.3%
	トイレ	218	2	39 18.0%
※1:公園施設のうちバリアフリー化が困難なものとして基準適合の対象外とされたもの				

3. 千葉県バリアフリーマスタープラン

3. 千葉市バリアフリーマスタープラン

千葉市バリアフリーマスタープラン策定の経緯

千葉市バリアフリー基本構想(平成20年8月策定)が令和2年度末に目標年次を迎えることから、計画の改定検討を実施。

改定にあたっては、改正バリアフリー法の趣旨を踏まえ、市全域のバリアフリー化を促進するための千葉市バリアフリーマスタープランを策定。



3. 千葉市バリアフリーマスタープラン

◇検討体制

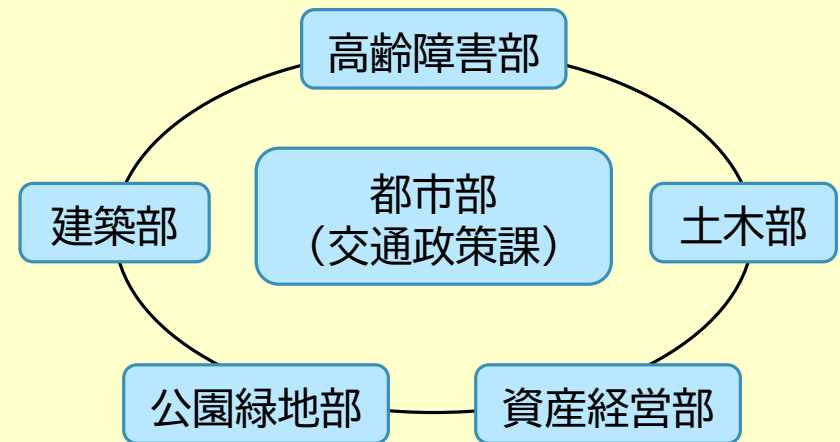
調査審議機関の設置

バリアフリー基本構想の策定及び実施に関する事項等について調査審議を行うため、令和元年8月20日に『千葉市バリアフリー基本構想推進協議会』を設置。



庁内組織との連携

『千葉市バリアフリー基本構想推進協議会』の検討内容について事前調整・報告したり、庁内で連携して取り組む施策について協議。



3. 千葉市バリアフリーマスタープラン

◇検討段階での各種取組

①各事業者の取組の調査・確認 (令和元年8月実施)

公共交通・道路・信号機等・都市公園・建築物・路外駐車場等のバリアフリー状況について、**主要な施設・経路等の管理者に問合せ(アンケート調査)**を行い、**現況を把握**。

設問1. 施設のバリアフリー化の状況について教えてください。 ※わかる範囲でのご記入で結構です

設問1-1 以下の表で、各施設の点検項目について、該当する選択肢をお選びください。

施設	点検項目	選択肢		
建築物	上下移動について			
	・エレベーターの設置	1. あり	2. なし	3. 必要な平面構造/テナント入居のため管理対象外など
	・その他昇降器具の設置	1. あり 例) エスカレーター、階段昇降機	2. なし	3. 必要なし
	道路から建物出入口までの敷地内通路について			
	・敷地内通路の幅員	1. 1.2m 以上	2. 1.2m 未満	3. 通路なし
	・敷地内通路の段差	1. 段差なし	2. 段差があるがスロープ等を設置	3. 段差や階段あり
	・視覚障害者誘導用ブロックの設置	1. あり	2. なし	3. 通路なし
	屋内の廊下等について			
	・廊下等の幅員	1. 1.2m 以上	2. 1.2m 未満	
	・廊下等の段差	1. 段差なし	2. 段差があるがスロープ等を設置	3. フロア内に段差や階段あり

◇アンケート調査票(一部抜粋)

②地域懇談会(令和元年9~10月開催)

バリアフリーに関する**市民の意識を把握**するとともに、**各地域の具体的な課題や改善策を整理**。障害者関係団体等を通じ、参加希望者を紹介いただき開催。

【意見交換のテーマ】

- ・よく利用する施設や経路
- ・バリアフリー上の課題
- ・区の特徴、バリアフリー化を進めるために特に重要なこと



各行政区にお住まいの方を中心に計36人の方が参加

3. 千葉市バリアフリーマスタープラン

◇検討段階での各種取組

③まち歩き点検ワークショップ(令和元年11月開催)

バリアフリー整備によって良くなった点や残された問題点を確認し、今後の他施設等での取組において参考にすべき点や改善すべき点を整理することを目的に、複数班に分かれて検証テーマを設定し、市民参加のもと経路・施設等のバリアフリー状況の現地確認及び意見交換を実施。障害者関係団体、学識経験者等を通じ、参加希望者を紹介いただき開催。

【検証テーマ・検証の視点】
 鉄道駅のバリアフリー
 ・駅の整備における配慮は？
 道路のバリアフリー
 ・歩道整備における配慮は？ など



各団体や大学生も交え計175人の方が参加

3. 千葉市バリアフリーマスタープラン

◇従前バリアフリー基本構想の改定に向けた課題

①道路特定事業等の継続的な推進及び生活関連施設・経路の見直し

- ❑ 道路特定事業計画にて道路のバリアフリー化は着実に整備が図られているが、一部未完了の事業もあり、**今後も継続的に整備を推進**する必要がある。
- ❑ 現基本構想策定時は十分な当事者参加による検証がされておらず、実際の**利用状況と必ずしも合致しない生活関連施設・経路**が設定されている。
- ❑ **不特定多数の高齢者、障害者等が利用する施設や徒歩で利用される経路を再設定**し、これに基づくバリアフリー化の推進を図る必要がある。

②生活関連施設における、具体的な特定事業の設定および推進

- ❑ 改定にあたっては、**建築物・公園等の生活関連施設も含め、利用者意見を反映した具体的な特定事業の設定**を行い、継続的な推進・進捗管理等を図っていく必要がある。

③改正バリアフリー法の枠組みを活用した地区設定の見直し

- ❑ 建築物・公園等も含めた面的・一体的な整備推進を図る上では、検討における協議会や関係機関等の負荷の増加も勘案し、**より重点的に取り組むべき地区を明確**にする必要がある。
- ❑ 改正バリアフリー法で新たに設定された枠組みを活用し、「**重点整備地区**」と「**促進地区**」を再設定することにより、より効率的・効果的に整備推進を図ることが求められる。

④適切な段階での 市民 意見の反映機会の確保(計画段階からの参加)

- ❑ 高齢者、障害者等の移動や施設利用にあたって**特に重要度の高い事業に際し、計画段階、設計・整備段階、整備後の段階などで適切に利用者の意見を反映**することができるよう、今後策定する基本構想等の中で、市民参加の考え方を示すことが求められる。

3. 千葉市バリアフリーマスタープラン

◇従前バリアフリー基本構想の改定に向けた課題

⑤社会背景の変化に合わせた新たな課題への対応

- 基本構想改定の検討に合わせ、これらの**変化を取り込んだ基本方針・目標等を再設定**し、各事業者の取組等へ反映させていく必要がある。

⑥着実な進捗状況把握・評価の枠組みの設定によるスパイラルアップ

- 千葉市交通バリアフリー基本構想策定(平成13年11月)以来、基本構想の改定を行いつつ取組が進められているが、**事業推進段階における協議会の開催や進捗状況把握の機会が設けられていない。**
- 改正バリアフリー法において、定期的な進捗状況把握・評価を行う必要性が示されたことも踏まえ、**基本構想等の中で、策定後の推進プロセスについて示す**必要がある。

これらの課題を踏まえ、バリアフリーマスタープランにおける「バリアフリー化の目標と基本的な方向」を示す。

社会参加への支援

安心して行動でき、いきいきとした社会参加ができる環境づくりを目指します。

都市の魅力づくり

バリアフリーが大きな魅力となり、活力の源となるまちづくりを目指します。

心のバリアフリー、意識の向上

やさしさの文化をはぐくむまちづくりを目指します。

市民との連携、市民参加

連携と協働により、ともに築くまちづくりを目指します。

ユニバーサルデザイン

全ての人にやさしいデザインの施設づくりを目指します。

自然環境や都市景観との調和

都市景観の醸成と自然と共生する市街地環境づくりを目指します。

スパイラルアップ

社会背景の変化に合わせた継続的な改善を目指します。

3. 千葉市バリアフリーマスタープラン

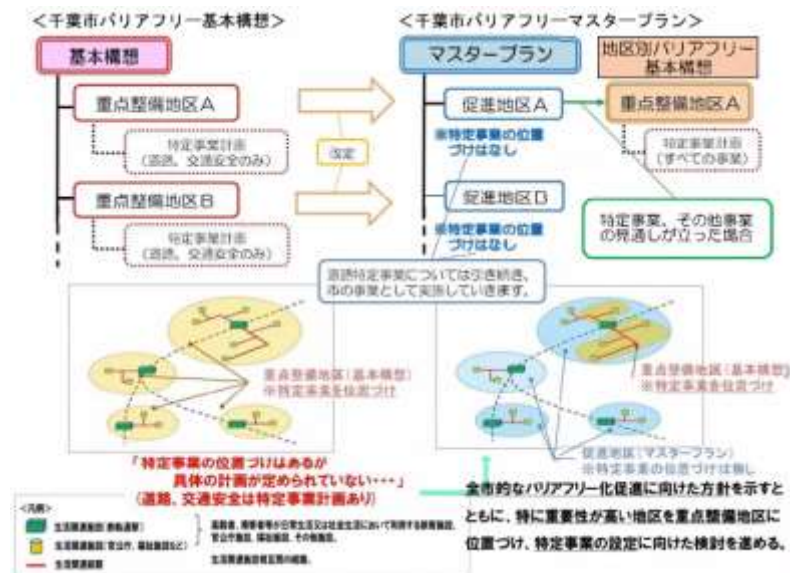
なぜ、従前バリアフリー基本構想の改定し継続するのではなく、バリアフリーマスタープランを改めて策定したのか？

従前バリアフリー基本構想では重点整備地区において定めることとされている「**特定事業・その他の事業**」について、「**道路**」及び「**交通安全**」以外は具体的に定められていなかった。

また、改正バリアフリー法における促進方針で定めるべき事項については、ほぼ網羅しており、重点整備地区を促進地区として改めて位置づけ可能であった。

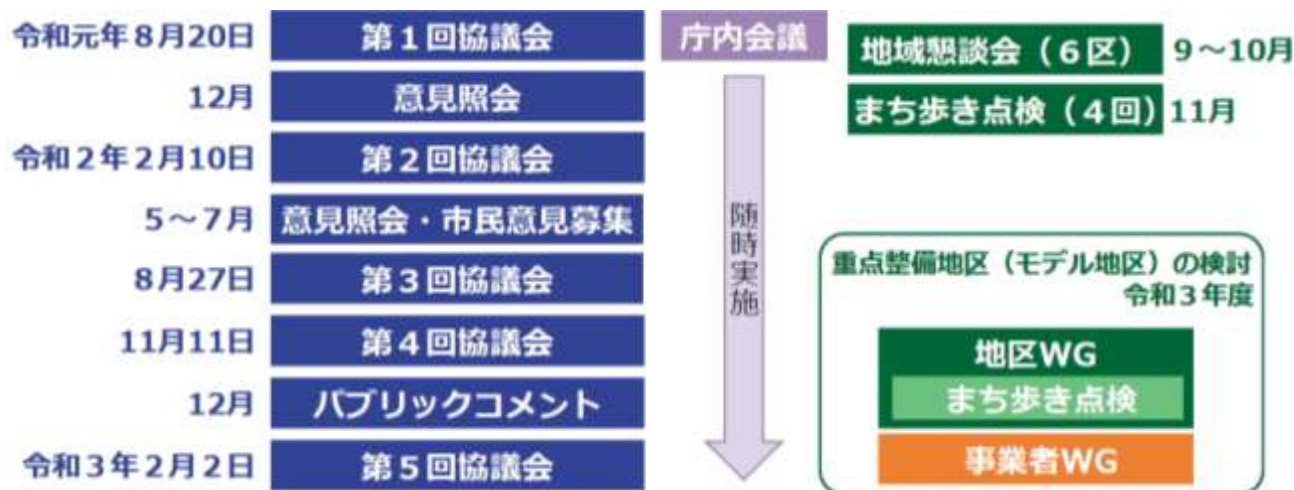


- 従前バリアフリー基本構想に定める重点整備地区の範囲は、促進地区として設定。また、**都市機能誘導区域(立地適正化計画)**を含むように促進地区を設定。
- **現在の実態に合わせて**、生活関連施設・生活関連経路・地区境界を再設定。
- まち歩き点検ワークショップ等での高齢者・障害者からの意見・課題等を踏まえ、**全市的なバリアフリー化促進に向けた方針**と共に、**各促進地区におけるバリアフリー化促進に向けた方針**を設定。



3. 千葉市バリアフリーマスタープラン

「千葉市バリアフリーマスタープラン」の策定にあたって、千葉市バリアフリー基本構想推進協議会や地域懇談会、まち歩き点検等を実施し、当事者参加のもと検討。



地域懇談会

地域特有の課題を把握するため、区別に意見交換を実施。



まち歩き点検ワークショップ

特徴的な施設・経路を視察し、バリアフリー推進状況を評価。



千葉市バリアフリー基本構想推進協議会

バリアフリーマスタープラン及び基本構想を検討し、内容について承認を行う、法及び条例に基づいて設置された母体。



千葉市バリアフリーマスタープランの策定



3. 千葉市バリアフリーマスタープラン

◇千葉市バリアフリーマスタープラン促進地区

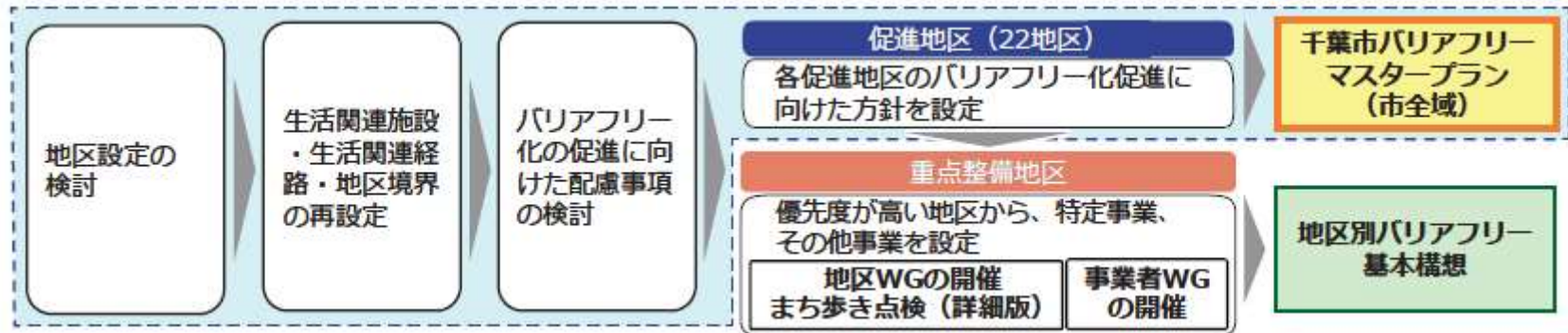
従前バリアフリー基本構想における重点整備地区を原則とし、立地適正化計画における都市機能誘導区域を含むエリアとして、**22の促進地区を設定。**



4. 千葉市地区別バリアフリー基本構想 (JR／京成稲毛地区)

4. 千葉市地区別バリアフリー基本構想

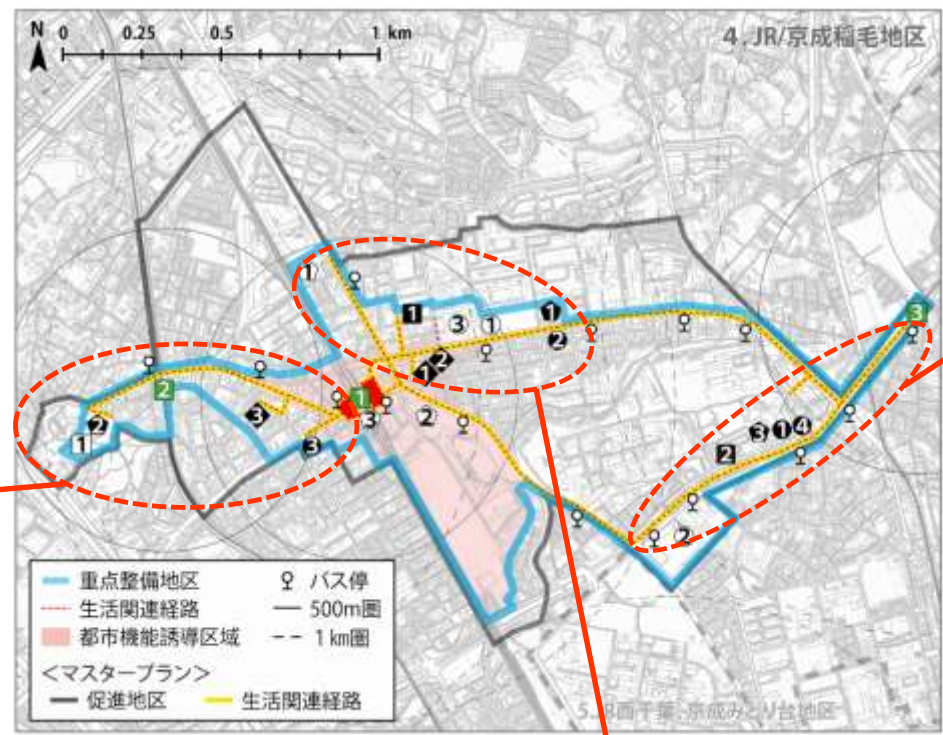
- 22の促進地区のうち、今後、優先して重点整備地区として検討する地区については、立地適正化計画との整合を図りつつ、重点整備地区の候補地区を評価要件等(旅客施設の乗降客数、生活関連施設の立地数、人口)を考慮し、設定。
- 2021年度(令和3年度)は、JR稲毛駅を中心とした「**JR/京成稲毛地区**」を**モデル地区**として、地区別バリアフリー基本構想の策定を検討。



地区WG(まち歩き点検ワークショップ)

4. 千葉市地区別バリアフリー基本構想

◇地区WG(まち歩き点検ワークショップ)



4. 千葉市地区別バリアフリー基本構想

◇地区WG・事業者WG 合同意見交換会

地区別バリアフリー基本構想の策定にあたり、地区WGで実施した「まち歩き点検ワークショップ」での意見を踏まえ、各施設設置管理者等に特定事業として掲載する対応方針を検討いただき、その内容についての**意見交換を行い、相互理解の促進を図った。**



各施設設置管理者や各団体・大学生も交え計44人の方が参加

4. 千葉市地区別バリアフリー基本構想

千葉市 地区別バリアフリー基本構想 (JR/京成稲毛地区)

2022年(令和4年)3月



第6章 基本構想の実現に向けて 6.4 基本構想策定後の市民参加

地区別バリアフリー基本構想の策定にあたっては、多様な市民参加の機会を設け、より多くの市民意見を聴取し、合同意見交換会にて市民と施設設置管理者等の相互理解を図られるよう取り組んできました。

この貴重な経験を踏まえ、地区別バリアフリー基本構想策定以降も、市民参加の機会を探りながら、重点的なバリアフリー化に向けた取り組みを進めていきます。

ご清聴ありがとうございました。
